

所長だより第60号 平成30年12月13日

# 希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール  
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号  
<https://uminoko.jp/>

## 「うみのこ」乗船55万人達成

【所長 小野澤 稔香】



12月12日、草津市立矢倉小学校と栗東市立治田小学校の皆さんが乗船したことによって、昭和58年の就航以来の児童乗船者数が55万人を越えました。35年にわたり、新旧2代の「うみのこ」で達成した記録です。

55万人といっても簡単にはイメージできない大きな数字ですが、滋賀県の人口が約141万人ですから、県民のほぼ40%が、「うみのこ」でのフローティングスクール経験者ということになります。初年度の5年生は、もう46歳くらいになら

れていますから、親子2代乗船も当たり前となってきました。引率される先生方も、5年生のときに乗船した経験者がどんどん増えています。

フローティングスクールでの一泊二日の航海は、開校式に始まり、閉校式で終わります。閉校式の挨拶で所員はこう語りかけます。「『うみのこ』での二日間が終わります。この閉校式は、卒業式でもあります。『うみのこ』を卒業していく皆さんは『湖の子』になるんですよ。」ややこしいですね。「この船の名前はひらがなで書いて『うみのこ』です。皆さんが卒業してなるのは、漢字で『湖の子』と書く『湖の子』です。」「55万人の『湖の子』の仲間入りです。」

同じ船に乗りびわ湖を学んだという、共通・共有体験を持つ『湖の子』が55万人もいます。滋賀県を離れ、他の土地で大学生活や社会人生活を送る中で、滋賀県出身者と出会うと「うみのこ」の話で盛り上がるのだそうです。「狭い船で寝たなあ。」「綱引きしたやろ?」「カツカレーおいしかったな。」中には、「朝もや晴れて♪」と歌いだすこともあるとか。この事業に関わるものとして、とてもうれしい「滋賀県民あるある」です。フローティングスクールで知り合った他の学校の友だちと、その後も文通を続け、生涯の親友になったという話も聞いたことがあります。

単に、共通・共有体験と言うだけではありません。5年生のときに、びわ湖の素晴らしさや水の汚れについて学んだことは、それぞれの心の中に確実に残っています。一時期かなり富栄養化が進み「赤潮」や「アオコ」が発生したびわ湖ですが、今は改善されてきており、南湖と北湖の水の透視度を比べても余り変わらないほどになってきました。「石けん運動」「下水道の普及」などの取組みの成果だと言われますが、55万人の『湖の子』たちが取り組んでくれたささやかな実践が、大きな力になったに違いないと私は思っています。

就航以来、大きな事故なくこの事業は続いてきました。この場をお借りして、安全な運航、安全な給食提供で事業を支えてくださった関係各位、航海前から航海後まで時間をかけ子どもたちの学びを支えてくださった先生方、応援してくださった保護者・県民の皆様にご感謝申し上げます。